

令和5年度 鶉小学校学校評価アンケート結果について

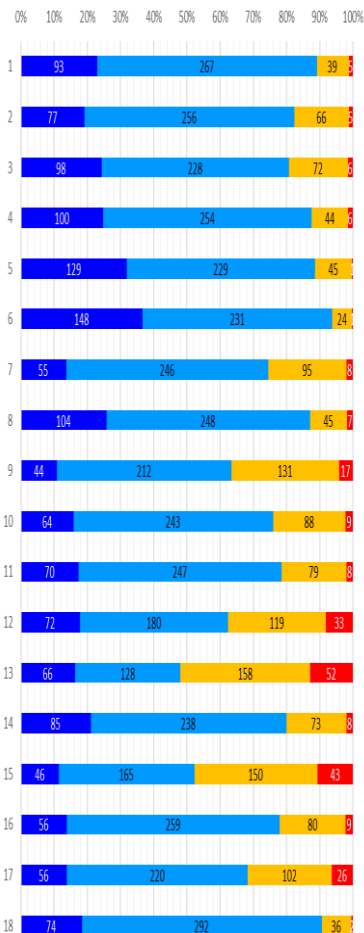
■よく当てはまる ■やや当てはまる ■あまり当てはまらない ■当てはまらない

① 保護者アンケート

4点満点

R5

1	学校は、子どものよさや頑張りを認め、自己肯定感を育む教育をしている。	3.1
2	学校は、分かる・楽しい授業に努め、子どもに学力を付けている。	3
3	学校は、保護者や子どもの悩みや困りごとに寄り添い、真摯に対応している。	3
4	学校は、いじめ防止基本方針(ホームページ参照)に沿ったいじめの防止や対応に取り組み、温かい心の育成とよりよい関係づくりに取り組んでいる。	3.1
5	学校は、家庭や地域と連携し、緊急時の情報発信や、非常時を想定した訓練、環境衛生など、児童の安心・安全に努めている。	3.2
6	学校は、タブレットなどICTを使った新しい教育活動に努めている。	3.3
7	学校は、英語に親しみ、外国の文化に関心をもてるよう工夫している。	2.9
8	子どもは、自他(家族・仲間・地域の人)の命の尊さを理解した行動をしている。	3.1
9	子どもは、苦手なことに挑戦し、努力することのよさを感じている。	2.7
10	子どもは、話す人を見て、最後まで話を聞くことができる。	2.9
11	子どもは、自分の考えに理由をつけて話すことができる。	2.9
12	子どもは、家庭学習に進んで取り組んでいる。	2.7
13	子どもは、本に親しんでいる。	2.5
14	子どもは進んであいさつをしている。また、「ありがとう、ごめんなさい」をきちんと言える。	3
15	子どもは、家庭で身の回りの整頓や手伝い、掃除などを自分から行っている。	2.5
16	子どもは、家庭や地域で温かい言葉で話したり、譲ったり、助け合ったりしている。	2.9
17	子どもは、ゲームや携帯、テレビやタブレットの約束、交通ルールなど決まりを守って生活している。	2.8
18	家庭では、子どもの話をよく聞いたり、よさや成長を見つけてほめたりしている。	3.1

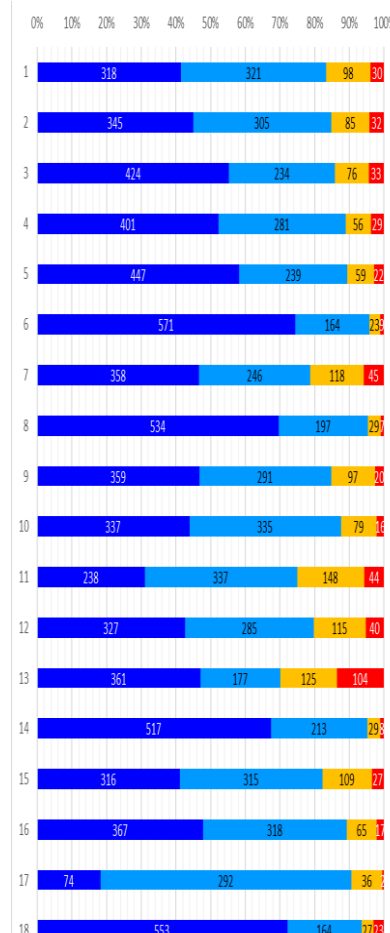


② 子どもアンケート

4点満点

R5

1	先生は、自分のよいところや頑張っているところを認めてくれる。	3.2
2	授業がよく分かる。授業が楽しい。	3.3
3	先生はなやみや相談ごとに対し、親身に応じてくれる。	3.4
4	人のいやがることをしていない。また、悲しい思いをしている子をそのままにしていない。	3.4
5	日頃から事故や災害、けが等から身を守るようよく考え、判断して行動している。	3.5
6	タブレットを使って勉強をすることができる。	3.7
7	英語を使って簡単なコミュニケーションをしたり、外国の文化を学んだりして楽しい。	3.2
8	自分の命も周り(家族・仲間・地域)の命を大切に行動をしている。	3.6
9	苦手なことにもあきらめずに取り組むことができる。	3.3
10	話す人を見て、自分の考えと比べながら、最後まで聞くことができる。	3.3
11	自分の考えをわけをつけて話すことができる。	3
12	家庭学習に取り組む時間を決めて、自分から進んで行っている。	3.2
13	教科書や本(または新聞)を進んで読んでいる。	3
14	あいさつや返事、「ありがとう」「ごめんなさい」を自分から言える。	3.6
15	学校や家庭で身の回りの整理整頓や仕事、手伝い、掃除などを進んで行っている。	3.2
16	学校や家庭、地域で温かい言葉で話したり、ゆずったり、助け合ったりしている。	3.4
17	ゲームや携帯、テレビ、タブレットなどの約束や交通ルールを守って生活している。	3.5
18	家の人は、話をよく聞いてくれる。また、自分のよいところやがんばったことをほめてくれる。	3.6



<保護者評価>

非常時を想定した命を守る訓練や家庭や地域と連携した対応に関して、好評をいただきました。学習面では、タブレット端末を使った教育活動について高く評価していただきました。また、今年度から始めた親子読書などの取組により、昨年度より読書への関心も高めることができました。

課題として、自己有用感を高める勤労・奉仕や互いを思いやる温かい言葉遣いなど、人としての豊かさを高めていく必要があることが分かりました。

<今年度を踏まえた次年度の方角>

- ・本年度も生命の尊重や人権の尊重、自己肯定感の醸成に力を入れて運営してきました。次年度も、本年度同様、いじめ対策監によるいじめ防止啓発や、中学校区と合同のいじめ防止週間、外部講師を招いての人権教育活動、青少年赤十字の活動など、人間性を磨く「自分磨き」に励み、学校教育目標の「ゆたかてたくましい鶉の子」を育むよう皆で取り組んでいきます。
- ・分かる・できる授業は、子どもたちの学びに向かう心を育むとともに、自己肯定感も育みます。今後も子どもたちのためになる授業づくりに力を入れ、分かる喜びと成長を目指して取り組んで参ります。授業が充実するためには、教職員が快活に勤務し、じっくり教材研究に取り組むことが欠かせないため、放課後のゆとりが必要であるなど、学校における働き方改革を進め、子どもに軸をおいた学校運営を行って参ります。
- ・岐阜市で取り組んでいる「ぎふ MIRAI's」を柱に、「人、もの、こと」にふれる活動を通して、人としての生き方を学び、その学びの中で、規範意識や奉仕の精神を身に付け、夢の実現につなぐことができるよう育て参ります。そのためには、学校と家庭・地域が同じ方向を目指して、ともに連携・協働することが必要です。次年度は懇談の回数を増やして、対話を重ねながら共に子どもを育成できるよう努めて参ります。

<子ども評価>

「タブレットを使った学習」の項目がさらに伸びました。文房具として有効に活用できている子が多いことが分かりました。また、それに伴い、家庭学習の取組も少し伸びました。スタディサプリなど端末学習の効果が出ていると分かりました。

課題として、週に2日、朝読書を行っていますが、もっと本のよさを実感する活動が必要と分かりました。心の豊かさに重きを置き、道徳を初めとした全教育活動において、人権を大切にしたい関わり方が、子どもたちの自己肯定感を伸ばしていくことにつながると考えました。